シリーズ・高専における英語教育のいま⑫

進化する高専英語教育を担うCOCET

都城工業高等専門学校教授　崎山　強

はじめに

昭和五十三年のころであったろうか。全国高等専門学校英語教育学会（略称COCET）の先生方は情熱に溢れていた。高専生の英語力を高めようと様々の研究発表をされた。「二十一世紀に世界で活躍するエンジニア」を育てようと狭い部屋は熱気に満ち溢れていた。COCET黎明期のこのころ、「いかにして高専生の英語力を高めようか」「高専の五年間一貫教育を活用して、国際舞台で活躍できるエンジニアを育てようではないか」と真剣に討議されていることを当時まだ弱輩者であった筆者はおぼえている。今はJABEE認定等のため、高専生の「国際的に通用する英語」が盛んに議論されるようになった。でも既に三〇年以上も前に、この学会の創始者たちは「熱い、この議論」を始めていたのである。教育環境も同じ、そして英語教育で同じ悩みを抱える筆者にとって、年一度のCOCETの大会に出席することは、まさに新しい情報を得る場所であった。

家庭的雰囲気のCOCET

前述したように、COCETは同年齢の学生諸君を教えている。他の著名な学会との大きな違いはここにある。

若いころの筆者は、六川信先生（元長野高専・故人）より「英文はこう読ませる、こう理解させる」という方法を伝授していただいた。また大西俊男先生（元鳥羽商船高専）は、「英語教育のみならず、丁寧に、分かりやすく学生に接する、これが教育である」と、まさに教育の根幹にかかわることも指導していただいたのを昨日のことのように覚えている。奥村平治先生（元米子高専）は「低学年教育における英文法の重要性。低学年こそ、英語教育にとっては最も大切な時期」とわれわれに指導して下さったのである。学会を離れても公私に渡り、手紙で、電話で兄のように優しくご教授いただいた。まさにCOCETは家族のような雰囲気である。「一人で悩まず皆で考えよう」というその精神は、今でも脈々と続いている。

再会、そして

長岡技術大学に、英語教官が集められたことがある。そこでCOCET創設期の第二代会長・関口賢治先生（元長岡高専・故人）とお会いできたことは至上の喜びであった。まさに時計の針が逆回りして、若いころにタイムスリップしたかに思えたのである。翌日のフォーラムは「新しい時代の教育」と題し、若々しい先生が登場された。「電話回線にモデムを繋ぎ、文字だけの掲示板で友達を探してメール交換しよう」という実践教育をされた。南九州からはるばる出て行った筆者は、

度胆を抜かれた思いで、「高専英語教育の世界は確実に動いている」と実感させられたのである。この若手の教師こそ、現会長の亀山太一先生（岐阜高専）だったのである。

新しい波がCOCETを加速させる

時代は平成に入ろうとする頃、COCETは大きく動き出す。

外部の講演者による基調講演のみならず、工学系の専門の先生方も注目されるようになる。九〇年代に入ると、コンピューターがわれわれの英語教育界にも浸透するようになる。その波を瞬時に感じとったのがCOCETの仲間であろう。それというのも、「工学系の学生は、コンピューターには強い。これらを駆使して、楽しい教材を考えれば彼らの英語へのモチベーションは高まるはず」といち早く感じ取ったのもCOCETの若手の先生方であったからだ。

東京を離れ、熱海のMOA瑞雲会館で第二十回記念大会が開かれた時などは、「COCETは大きく動き始めた」と筆者は実感したのである。

「工学の世界でしか使わない機器を英語教育の世界へ」と、COCETでの研究発表の数々も、大きく時代を揺るがすものであったと記憶している。

前述したコンピューターを駆使して、学習者のモチベーションを高めるものとしてあげられるものは何と言っても『COCET3300』であろう。

平成十四年度に始まった「高専生のための英単語リスト」作成プロジェクトでは、「理工系に学ぶ高専生に必須の単語を集めよう。そして楽しく学んでもらおう」という趣旨のもとに、全国から集まった高専英語教員有志が必須の英単語を集め、それらを集大成されてできたのが『COCET3300』である。この画期的な英単語学習用システムは、平成十七年度の高専教育IT教育コンソーシアムの公募プロジェクトに採用され、独立行政法人メディア教育開発センターによって実用化された。

コンピューターに全く疎い筆者にとって、計画段階で先生方が熱く議論されていることが、さっぱり理解できなかった。しかし実用化されたこのシステムを、学生諸君が楽しそうに学習している姿を見るにつけ、改めて、この先生方の偉大さに驚くのである。学生の間では、「コセットしに行こう。Let'enjoy COCET!」という言葉まで生まれるほどになったのである。

有り難い情報の共有化

われわれ教師にとっても、コンピューターの普及には頗る恩恵を被っている。

昨今頻繁に求められる調査やアンケート等も、COCETの会員なら瞬時のうちに相談でき集計できる。もし、同じような調査・研究をした資料があれば、参考文献として送っていただくことも度々ある。これも、同じような環境で、同じような悩みを抱えている高専独自の学会だからできることである。高専英語教育は、まさにCOCETが担っている。

プレゼンテーションコンテストの開催

いま一つ、COCETが大きく果たしたことに、「全国高専英語プレゼンテーションコンテスト」がある。既に、第二回も大成功のうちに終わった。大会実行委員は、いつも必死に深夜まで討議をし、この開催にこぎつけた。それも、高校生とは違う、「全国の優秀な高専生をスポットライトのあたる場所に連れ出そう」というCOCETの先生方の熱き思いがあったからである。

プレゼンテーションコンテストとは、全国の激しい予選を勝ち抜いた高専生が「英語で自分の思いを熱く語る」、「英語の使える高専生」が「オリンピックセンターを目指す熱き闘い」なのである。

おわりに

「最も多感な青春時代の五年間を共に過ごす高専生」「素晴らしい工学系才能を持った高専生」を誰よりも愛し、育てようとする熱意に溢れた集団こそCOCETであるといっても過言ではない。

※全国高専英語プレゼンテーションコンテストの詳細については、本連載の第二回（二一九号）で報告されている。